

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成21年10月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2873400739		
法人名	社会福祉法人 円融会		
事業所名	グループホーム サルビア		
所在地	兵庫県神崎郡福崎町大貫580 (電話) 0790-22-6001		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月13日

## 【情報提供票より】(平成21年 9月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 4人, 非常勤 11人, 常勤換算	10.89人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4階建ての	1~2	階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	約17,000 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

## (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	18名	男性 5名	女性 13名
要介護1	9	要介護2	5
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 85.1歳	最低 78歳	最高 90.7歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田医院・加西市民病院・原田歯科
---------	------------------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

四方を山々に囲まれ、刈り入れの済んだ田園風景からは秋の香りが漂う自然豊かな地に位置している。社会福祉法人円融会を母体に平成17年4月に開設された2ユニットを有するグループホームである。ゆったりとした敷地には家庭菜園があり、利用者とともに手入れされた畑からは季節ごとの野菜の収穫があり食卓をにぎわしている。アットホームな生活の支援にこだわり、食事、入浴、排泄の3本柱のケアに加え、たばこや晩酌を楽しみ、在宅生活に限りなく近い支援が行われている。すすきやコスモスの花で季節感を演出したりリビングには特大の窓から降り注ぐ自然の光と風が心地よく、利用者の表情にも安心と安らぎが感じ取れる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前回評価については職員で共有することで何が課題であるかを鮮明にし取り進む姿勢がある。今後は目標達成シートを作成し優先順位をつけての取り組みを期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価は職員が全員で取り組んだ。評価項目の意味の理解もしながらケアを振り返り、支援の在り方について気付きもあった。新たなゴールの目標に向かって職員全員で点検することの重要性が位置づけられている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月毎の第2土曜日に定例化されている。メンバーは区長、副区長、民生委員、行政職員、地域包括支援センター職員、家族等の多彩な顔ぶれで構成されている。議事録も作成し、公表されている。地域包括支援センターの依頼により介護相談支援員の受け入れや地域のイベントにホームの参加依頼があったりと地域との双方向の交流が深まっており、地域に開かれたホームとしてサービスの質の向上に取り家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
重点項目	家族との信頼関係を築くため対等な関係づくりを大切にしている。面会時には個別の報告を行い、本音を言ってもらおう配慮も欠かさない。機関紙「ともにくらす」を毎月発行して暮らしぶりを報告している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目	法人母体が毎年開設記念祭として開催しているカーニバルは歴史もあり、広く地域に定着している。この優位性もあり地域との交流は多彩である。双方向関係も定着しており、認知症や介護保険制度について講話の依頼もあり、地域で必要とされる活動や役割も担っている。秋祭りは3台の屋台がホームに集結訪問して練り歩く。その勇壮な様子が目に浮かぶようである。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人母体の理念『共に暮らす』のもとに、人権を尊重し、家庭的な雰囲気のもとで生かされる生活から生きる支援・共に補い・支えあう。とする理念が掲げられている。『共に暮らす』の内容として(地域とともに暮らす)が網羅されている。		地域密着型サービスとしての果たすべき役割を反映した内容として、「地域住民との交流の下で」と明確に掲げることが求められている。法人母体の理念とともにホーム独自の理念として家族や地域の人々にもわかりやすく、具体的にイメージしてもらえることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対して折りにふれ理念を伝える機会を作っている。職員が何を大切に利用者向き合うのか問題提起も欠かさず意識付けに取り組んでいる。		理念をケアの基本として活かされてこそ意味がある。職員の胸にストーンと落ちる工夫として職員自身の言葉で表現する等、具体的な内容に整理し、意識付けが図られるような取り組みを期待する。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人母体が地域にしっかり根付いてきた歴史もあり、ふれあい喫茶、中学生の訪問、幼稚園児とのイモ掘り、日常的な野菜の差し入れ等の交流とともに、認知症や介護保険制度について地域に講師役として依頼され、双方向関係も円滑に進んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員でミーティングを行い取り組んだ。その過程では評価項目の意味について質問が出たり、理解が不足していたこと、何が課題なのか気づきを得る機会となった。今回の外部評価の講評については職員も含めて話し合うことが出来た。		自己評価は一つひとつ職員全員で点検するその過程が大切であるという認識があり取り組んできた。外部評価についても改善項目を職員が共有することで取り組んでいく意気込みがある。新しい目標達成シートを作成し、優先順位を決めた取り組みを期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回、第2土曜日に定例化している。区長、副区長、民生委員、家族等に加え、行政職員、地域包括支援センター職員も参加し、多彩な顔ぶれとなっている。ホームからの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、サービス向上に繋げている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>福崎町健康福祉課とは対等な関係がつけられ、ホームの現状をしっかりと投げかけ、受け止めてもらっている。今後は地域包括支援センターにホームの実態を把握するように求めていき、関係づくりを積極的に図っていく所存である。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時は利用者の状況報告は欠かさず行き、体調変化の時は電話によるきめ細かい報告や意向を確認している。4月からは機関紙「ともにくらす」を毎月1回発行し、生活ぶりやエピソードを分かりやすく伝えている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議には家族代表は必ず参加している。家族との対等な関係づくりに留意し、積極的に意見を聴く努力をしている。家族会は年2回行っているが、参加家族が減少傾向にあり工夫が必要との見解を持っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者は馴染みの人と初対面の人とでは表情が違うことから馴染みの部分はしっかりあることが確認できる。2ユニットの職員配置は各ユニット固定勤務者を一人ずつ配置した他は2ユニット交代で勤務体制を取っている。保育所もあり、夜勤は3交替体制で離職率は低い。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年の外部評価の改善項目として、ホーム独自で認知症ケアについての研修を年3回計画した。その他、ケアマネジャー（介護支援専門員）や介護福祉士の資格修得をめざして意欲を引き出すバックアップ体制もあり、職員を育てる方針が確立している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には4か所の同業者があり、行政の召集する会議に参加し、年2～3回の交流はある。ネットワークづくりや自主的な勉強会づくりで情報を共有したいと願っているが進んでいない。行政や地域包括支援センターにコーディネーター役を働きかけている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期対応は本人の安心と関係づくりにおいて特に大切であり、入居前は何回か訪問してもらい納得を得るようにしている。法人母体からは欠員対策を迫られ、板挟みといった面もあり、ジレンマを感じる部分である。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	最近、家庭菜園で利用者の指示をもらい大根のタネ植えをした際、指示通りにいかず失敗した場面があったが、利用者から失敗を受け止めてもらえ癒されたことがある。昔とった杵柄を發揮してもらうことで利用者の生きる自信にも繋がっている場面がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>昨年の改善項目であり、一人ひとりの意向を把握する方法を模索してきた。利用者はややもするとおまかせ傾向や遠慮があり、どこまで意向を聴き出せるか難しい課題であったが、日常会話の中から利用者の生活歴を把握し支援に繋げる方法として「波瀾万丈」ノートをつくり取り組んでいる。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人の「意向調査票」と家族の意向を確認しながら、ケース担当者が原案を提示し職員全員で検討している。前回見直しとどう変化したのか明確にしながら、あらゆる角度から本人がよりよく暮らすための課題やケアのあり方について話し合い作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>おおむね6ヶ月毎の見直しとなっているが、日々の引き継ぎでの気づきや、状態変化には柔軟に臨機応変に見直しはできている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人、家族の状況に応じて、通院支援や理髪店、美容院への外出支援、外泊支援など、利用者の要望に添える支援は積極的に行っている。看護師が配置され医療連携体制加算の指定も受けている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはかかりつけ医の受診としている。受診や通院は、職員が付き添うことで利用者の状況がより把握できるメリットはあるが、職員の負担が多くなっている側面もある。		かかりつけ医での受診は、家族との協力は欠かせない課題である。通院介助を行う方法について、家族との対等な関係づくりの課題として位置付け、十分な話し合いを行い、ルール作りに取り組んでほしい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「ともにくらす」の理念に沿って、重度化した場合や終末期のあり方、急変時の連絡網についてマニュアルを整備し、家族への説明も行い、合意を得ている。最終的には家族の意向を尊重する方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者はプライバシー確保の徹底について、記録や介護計画などの取り扱いのみに限らず、利用者の尊厳と権利を守るための基本としてしっかり捉えている。日々の関わり方を点検し現状認識の上、意識的な取り組みが行われている。		利用者一人ひとりに常に寄り添って、尊重する言葉かけや対応を実践することは、ややもすると守り通すことが難しい事項である。管理者は職員自身の成長と裏表の課題として日常的な確認と改善に向けて引き続き取り組みを期待する。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝5時から散歩する利用者、たばこや晩酌を楽しんだり家庭菜園を手伝ったり、心ゆくまでおしゃべりを楽しむ等々、利用者のペースや思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広くて使い勝手のいいオープンキッチンからは調理のにおいが漂い、味付けや盛りつけ、配膳等、利用者の出番も多く準備が進んでいる。家庭菜園から取れたての野菜が食卓をにぎわし、新鮮なものが採り入れられているのもうれしい。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のホームでの生活は家庭での生活を固持することを基本としている。入浴についても在宅と同じように毎日入浴、夜間入浴にこだわっている。そのため、夕方3時間勤務の職員を配置するフォローも行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅生活そのものを再現する視点で、各自の居室の掃除、料理、洗濯等それぞれ職員の見守りの中、役割分担を持ち、男性も積極的に参加している。夏の暑い日は昼間のビールもOK、魚釣り、コスモス見学、そして、秋には法人母体の保養施設への一泊旅行も楽しみにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	新型インフルエンザが福崎町で流行していることもあって、外出を控えているが、利用者は相当のストレスを貯め込んでいる様子を察している。法人母体の駐車場近辺への散歩では間にあわず、取り合えずはススキを見学にドライブを計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は利用者が鍵がかかった状態で暮らすことの弊害についてきちんと理解できている。危険との隣り合わせもあってドキッとすることもあるが、日中は玄関の鍵をかけずに自由に入出入りできている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	法人母体との防災訓練は年に2回、消防署の協力により本格的に実施している。地域の区長、消防団との連携も行っている。今回、佐用町や山口県防府市の水害被害から学んで、近くにある池対策として水害対策マニュアルを作成した。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	職員全員が知識や意識を持ち、食欲が進むように工夫がなされている。食事は毎食チェック表に記録し、毎月1回は体重チェックを行って体重のコントロールを行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	自然の採光が降り注ぐ広く開放感のある居間には季節の花も満載で安らぎがある。テレビコーナーにはソファや畳のベンチもあってくつろげる場所になっている。喫煙コーナーもあり、生活感や季節感のあるものがうまく混ざり合ってくつろげる空間になっている。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室にはトイレとミニキッチンが完備されており、馴染みのタンスや家族の写真、防災用カーテン、季節の一輪ざしの花等、安心してその人らしく過ごせるような配慮がある。		

 は、重点項目。